

NEWS LETTER



京都教育大学
附属教育実践センター機構

Kyoto University of Education
Organization of Educational Research and Practice Centers

第1号 (2011. 4. 21)

教育支援センター

Educational Support Center

<http://cert.kyokyo-u.ac.jp/>

センター長就任挨拶

(水山光春)

この度、教育支援センター長を拝命いたしました。本センターは2010年の本学「附属教育実践総合センター」の改組に伴って誕生した新しい組織です。私事ながら、私は平成17年から20年まで本センターの前身の附属教育実践総合センター長を仰せつかっていましたので、ふるさとに戻ったような、とても懐かしい心持ちです。

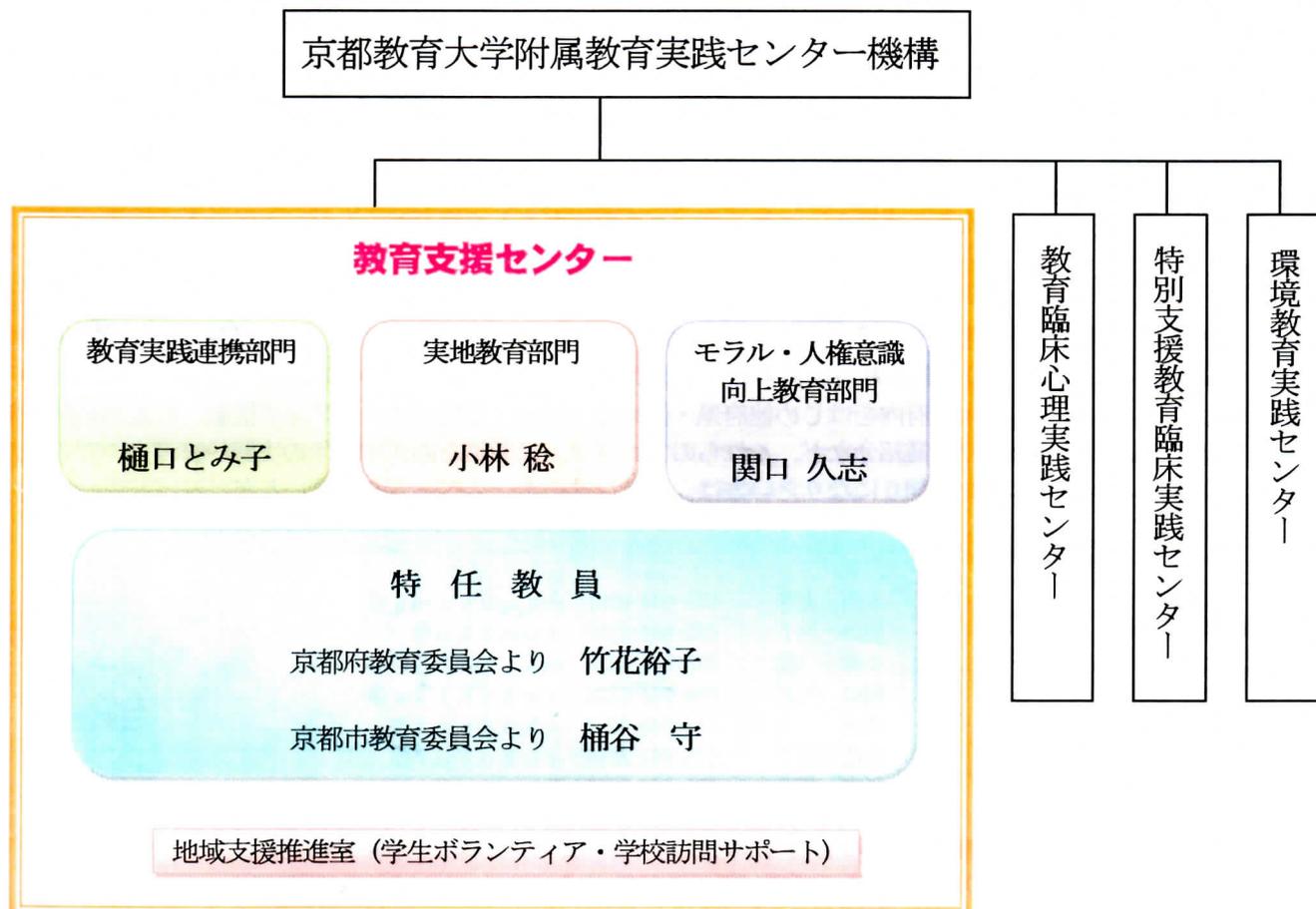


しかし、この数年の間にもセンターを取り巻く状況は大きく変化しました。教育課題は日々、多様化し、複雑になっています。現在、本センターでは、「教育実践連携」「実地教育」「モラル・人権意識向上教育」の3つの部門を置き、(1) 本学附属や地域の学校園の教育研究並びに教員の資質向上の支援、(2) 実地教育に関する開発、企画、評価と学生の支援、(3) モラル・人権意識向上に資する教育の実践と研究、を主たる業務としていますが、これらの業務内容は、今日的課題の多様化・複雑化の現れでもあります。

歴史をたどると本センターは、教育研究所(昭和26年)、附属教育実践研究指導センター(昭和55年)、附属教育実践総合センター(平成12年)をその前身とし、本学センター群の中でも中核的位置にあり、特にオールラウンドに大学と教育現場、並びに本学教員と本学学生を結ぶ結節点としての役割が求められてきました。

組織的には生まれて間もないセンターですが、歴史的来歴と今日的課題の両方を踏まえながら、新しい課題にも積極的に挑戦していきたいと思えます。今後とも、どうかよろしく願いたします。

教育支援センター組織図



教員紹介

樋口とみ子 (教育実践連携部門)

担当は「教育実践連携部門」です。教育方法学(教育課程論)を専攻しています。学校教育のカリキュラム(教育課程)を通して子どもたちに育てたいものとは何かについて、学力やリテラシーという言葉に着目して研究を進めています。教育実践との結びつきを大切にしたいと考えています。

小林 稔 (実地教育部門)

平成23年2月1日付で「実地教育」担当として着任いたしました。教育実習関連科目の他に、学部では「初等生活科」「特別活動の研究」「教育実践基礎演習」の授業を、また、大学院では「学校教育実践総論VI—教師教育を考える—」の授業を受け持っております。現在では、教員志望学生に対して優れた「教育実践力」が求められていますが、大学という高等教育機関で教員養成に携わっている根本を忘れずに職務にあたって参りたいと思っております。よろしくお願いいたします。

関口 久志 (モラル・人権意識向上教育部門)

「モラル・人権意識向上部門」担当です。専門はセクシュアリティ。性を人権として位置づけて、すべての人に生命の尊厳と生活の豊かさが保障され、そのうえで個々の多様な性的な幸福が実現できることを目標として、より良い人間関係を築くために研究活動しています。

桶谷 守 (特任教員・京都市教育委員会より)

本年4月よりお世話になっております。3月末までは、京都市の教育相談総合センターに勤務しておりました。教育の中での専門は生徒指導論と教育相談です。教育現場では以前よりも増して厳しい状況が続いています。子どもたちの心に寄り添いながら確かな教育活動ができるよう教師教育を進めていきたいと思っております。

竹花 裕子 (特任教員・京都府教育委員会より)

平成23年4月1日付で京都府からの特任教員として着任いたしました。母校である京都教育大学にお世話になることとなり、大変光栄に思っております。本学を卒業後、京都府の小学校教員として長年勤務し、子どもたちを取り巻く環境や子どもたち自身の微妙な変化を肌で感じてきました。また、社会教育行政にも携わり、家庭・地域社会と学校が手を取り合い、ともに子どもを育む多くの実践に触れ、その重要性を認識するところです。これらの経験を活かし、本学の教職キャリア教育に微力ながら尽力して参りたいと思っております。よろしくお願いいたします。

シリーズ「人権に基づく性教育」について (関口久志)

このシリーズでは、各分野の人権に基づく性教育の専門家をお招きして、その理論と実践を学習します。目的は性を幸せ・健康(ウェルビーイング)なものとするための教育力を身につけることです。対象は学生、本学関係教職員、一般教職員、一般の方々など性に関わるすべての人々です。

いま世界の潮流は、このように性の健康を人権として捉えています。国連人口基金で基本理念とされている「性と生殖に関する健康」Sexual and Reproductive Health(SRH)でも『各人が安全で満ち足りた性生活を営み、子どもをつくるのか、つくるならばいつ、何人、誰と、どこで、妊娠・出産するのかを自らの意思で決められ、性別・年齢にかかわらず、自分の性と生殖について身体的・精神的・社会的に良好な状態であること』とあります。

この基本理念を実践できるようになるためにも、このシリーズを更なるものにしたいと願っています。

スクールボランティアについて (小林 稔)

本センターでは、公立学校での学生ボランティア活動を実地教育の一環として積極的に推進し、現在、次の事業等の紹介やサポート活動を行っています。1)京都市教育委員会の「学生ボランティア・学校サポート事業」2)京都府内の小・中・高等学校でのボランティア活動 3)大阪府内をはじめ他府県・他地域での公立学校のボランティア活動 4)大学訪問を希望する小中学生の大学内の施設案内や授業紹介など。これらのプログラムは教職をめざす学生の実践的指導力の育成において役に立っています。活動の詳細をお知りになりたい方は、本センターホームページをご覧くださいと思います。

教育支援センター スタッフ

センター長(併)	水山 光春	075-644-8281	mizuyama@
教育実践連携部門	樋口とみ子	075-644-8337	tomiko@
実地教育部門	小林 稔	075-644-8229	mkoba98@
モラル・人権意識向上教育部門	関口 久志	075-644-8326	sekihisa@
特任教員(京都市教育委員会)	桶谷 守	075-644-8214	oketani@
特任教員(京都府教育委員会)	竹花 裕子	075-644-8216	yuko627@
事務補佐員 センター全般	杉本 恭子	075-644-8335	kyoko@
事務補佐員 地域支援推進室	河内真由美	075-644-8336	sien@
事務補佐員 留学生・地域交流演習室	(16時15分-17時15分)	鄭紫薇(月・火・金)	李琳(水・木)



TEL 075-644-8335 FAX 075-644-8339 E-mail cert@kyokyo-u.ac.jp

